

# 宮古島市友利・砂川「まていだ野菜生産組合」

生産  
部門

## 地下水で育てたブランド野菜でふるさとづくり (平成17年度認定)



平成17年10月1日に平良市、城辺町、伊良部町、上野村、下地町が合併して宮古島市が誕生した。友利・砂川地区は、宮古島の南部に位置し、かつての水資源であった「友利あま井(ガー)」(県有形民俗文化財指定)や14~15世紀頃の広大な集落跡である「上比屋山(ウイビャーヤマ)遺跡」(県指定史跡)がいまでも残っている。

地域の主要産業は農業であり、主にサトウキビ、葉たばこだが、畑地かんがい施設の整備が完了し、安定した農業用水が確保されたことにより、地域では野菜農家が増えてきた。

まていだ野菜生産組合は、「がんずう(長寿・健康の意味)」ブランドの野菜の契約栽培農家38戸による組合で、組合員同士で優・良・可による品質管理や、研修会・講習会を行い、生産技術向上の研鑽の結果、宮古島のスーパーのほか県内外への販路を確立しており、「がんずう野菜」は消費者に高い評価を得ており、「地下水で育てたブランド野菜でふるさとづくり」に励んでいる。

また、生産組合は小学生の社会科学習の受入や保育園児の野菜収穫体験を実施し、子どもたちに地域の農業を伝えていく取り組みにも積極的である。

